

知的障害を伴う自閉症スペクトラムの人の支援をしている方へ（ご参考）

☆ コロナウイルス対策についての合理的な配慮 ☆

コロナウイルスの拡大が止まらず、緊急事態宣言も発出され大きな不安が広がっています。

さまざまな工夫をした説明も公開されていますが、知的障害を伴う自閉症スペクトラムの特性のある方は、コロナウイルスの説明、感染しやすいこと、3密がよいことなどを理解することは容易ではありません。以下に、本人の行動の仕方を中心に教えていただく支援の例を記載させていただきます。

ご参考にしていただき、当事者の方をはじめ、みんなの命が守られることを願っています。

■ 2つの大切なこと

1. 当事者の方には、具体的な行動の仕方を教える（理由の説明は省略）
2. 支援者の方は、当事者の方が適切に行動できるよう支援をする

■ 当事者の方ができるように教えたいこと

1. 手を洗うことの徹底（口、目、鼻からウイルスが入ることを防ぐ）

- (1) 利用している事業所についたら、石鹸で手を洗う
- (2) 食事の前に、石鹸で手をあらう
- (3) 休憩時間などに、何か飲むとき、おやつを食べるときなどに、石鹸で手をあらう。
- (4) 家に帰ったら、石鹸で手を洗う。

2. できるだけ話をしない（飛沫が飛ぶことを防ぐ）

- (1) 食事の時には話をしないように支援

食事中は話をしないことが一番ですが、話をしてしまう人は、座席の位置の工夫、声を小さくする、など他の方に唾液の飛沫が飛ばないように支援をしてください。

- (2) 大きな声で話をしないように支援（話す時は小さな声で）

大きな声で話をすると、飛沫が飛びます。本人が大きな声で話をしている時に、大きな声で注意をすると、否定されたと感じて興奮してしまったり、大きな声に反応して、余計に大きな声になってしまうことがありますので、小さな声で、やさしく、支援してください。

- (3) 長い時間話をしないように支援

長い時間話をしていると、夢中になり、飛沫が飛びリスクが高まります。

なお、「長く話さないでください」「話は短くしてください」のような説明では理解が難しい人が少なくありません。時間がわからない人、守れない人など、人により教え方が難しいことが多いと思われます。話以外のことで楽しめることへの誘導もひとつの方法です。

■ マスクについて

1. 職員が、利用者の方に説明をする時、職員同士の打ち合わせ、お客様とお話しをする時などは、飛沫が飛び可能性がありますので、原則としてマスクをしてください。少しはなれて、小さな声で短く話す場合のマスク着用は、状況に応じて判断してください。
2. マスクには、自分が感染している場合も、周りの人が感染している場合も、ウイルスが付着する可能性がありますので、マスクそのものの取り扱いに次のように注意が必要です。

- ①外したマスクをテーブルなどにおかない ②着けているマスクにさわらない ③マスクを外したらすぐにすてる（使い捨てマスク） ④マスクを捨てない場合はビニールの袋にいれる（複数回使う布製マスク） ⑤マスクをはずしたらすぐに手を洗う